

## 8 日本芝裁断茎の機械吹き付け植栽における適品種の選定

### ねらいと成果

水田畦畔・法面管理の省力化に、環境や生態系保全の観点から日本芝の植生が関心を集めている。また、畜産分野でも耕作放棄地等を活用した牧野造成の省力管理型草地資源として評価する動きがある。そうした中で、従来の張り芝による植栽工法とは異なる、大規模早期植生のための省力施工法が求められている。

そこで、日本芝裁断茎の機械吹き付けによる植栽法について、品種別活着適性、早期被覆性、植栽後の灌水や転圧の方法を検討した。

その結果、生育が旺盛で早期に土壌面を被覆する品種は、「はやと」及び「みやこ」であり、また夏期施工では初期灌水が不可欠で、転圧が活着に有効なことが認められた。

### 内容

2002年7月17日に北部農技内の桑園跡平面において、「コウライシバ」「ノシバ」「はやと」及び「みやこ」の張り芝用苗芝1.5m<sup>2</sup>分の裁断茎と基盤材（パーク堆肥+ダム湖底土）1,500リットルを用い、ビオ・セル・ショット工法によって各品種150m<sup>2</sup>に機械吹き付け植栽を行った。

植栽翌日にローラー（約500kg）による転圧及び灌水処理（期間：7月18日～25日）をした。品種別活着芽数は、転圧及び灌水の有無により違いはあるが、概ね「はやと」「みやこ」「コウライシバ」「ノシバ」の順に良く、転圧と灌水は明らかに活着を促進させた（図1）。

翌年2003年5月、6月の被覆率は、吹き付け直後の灌水及び転圧の有無がやや影響しており、灌水・転圧区が各品種とも優っていた。品種の特性として「はやと」及び「みやこ」の増殖率が「コウライシバ」及び「ノシバ」に比べ良かった。

8月調査では植栽時灌水、転圧区がどの品種とも急速に繁茂しほぼ90%となり、特に「はやと」及び「みやこ」の被覆率が良かった。「コウライシバ」を除く3品種は9月（植栽後14か月）には全面を被覆した。「コウライシバ」は生育がやや緩慢ではあるが、10月時点で100%の被覆となった（図2、3）。

### 普及上の注意事項

「はやと」及び「みやこ」は、種苗登録品種であり信用ある緑化業者から入手可能であるが、営利販売のための増殖は禁止されている。

福嶋 昭（北部農技・農業部）

